

## 『今から後、あなたは』(ルカの福音書 5章 1-11節) 2023.4.30.

<はじめに> 物事には始まりがあります。一大転機を経る場合もあれば、いつの間にか始まっていたと後で気付くこともあります。この物語は漁師であったシモン・ペテロがイエスの弟子として踏み出すシーンです。彼の中で何が起こったのでしょうか。イエスは彼に何をしたのでしょうか。

### I イエスについて行く(10-11)

#### ①すべてを捨てて(11)

イエスを信じる者は、イエスとともに歩み、イエスのことばと生き方に日々従って生きます。漁師たちはイエスに従う重大な決断をしています。最初からそのつもりだったのでしょうか。2節で彼らがしている作業は何のためですか。「すべて」を具体的に挙げると何でしょう。

#### ②人間を捕る(10)

ペテロたちをその決断へと導くきっかけは、10節のイエスのことばです。漁師は魚を捕って人々に届けます。前夜の不漁から一転しての大漁に、彼らは喜びを通り越して驚きました。神のことばを求める群衆に届けるイエス(1)は、彼らにもそうなれると言われます。

### II 網を下ろして魚を捕りなさい(1-7)

#### ①舟から教えるイエス(1-3)

イエスは湖畔にある小舟を見つけ、シモンに舟を陸から少し漕ぎ出しよう頼まれます。その時、舟主である漁師たちは何をしていましたか。イエスが舟に乗って、そこから群衆を教えたのはなぜですか。イエスが話される間、シモンはどこで何をしていたでしょう。

#### ②深みに漕ぎ出して(4-5)

話が終わってイエスがシモンに「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい」(4)と言われたのは、どうしてでしょうか。それに対してシモンは何と答えましたか(5)。漁を行うのは、大方明け方までです。彼のことばから、その思い・考えも察してみてください。

#### ③網が破れそうなほどの大漁(6-7、9)

降ろした網を引くと異様な手ごたえでした。網はおびただしい魚でいっぱいです。網を引き上げるために仲間にも助けを仰ぎ、魚は二艘の舟いっぱいになりました。この大漁はシモンにとって予想通りでしたか。漁師なら大漁を喜びますが、彼らはどうでしたか(9)。

### III 恐れることはない(8-11)

#### ①主よ、離れてください(8)

大漁へのシモンの反応は意外です。イエスに協力して舟を出したことで、望外の大漁を得て大喜びしてもいいはずですが。なのに、彼は自分の罪深さに気付き、イエスを避けます。何が罪深いと分かったのでしょうか。相手と距離を置こうとするのはどんな心境でしょうか。

#### ②罪深い人間(8)

シモンは何か悪いことをしたのでしょうか。彼が自覚した罪深さはイエスとの向き合い方、思いにあります。漁の素人イエスの提案に表向き従うも、魚が捕れるとは思っていません。彼の二面性、従順そうに装うズルさと、イエスの誠実とそのことばの真実は対照的です。

#### ③イエスのまなざし

イエスは、シモンの「でも、おことばですの」のことばに信仰の片鱗を見、自分の罪深さを見つけ、それを告白する正直さに目を留められ、「恐れることはない」(10)と言われます。今は未熟であっても、主は彼を育て、用いようと、彼に働き掛け、造り変えられます。

<おわりに> 神の子イエスの御力と御業を求めて群がり、この御方を利用しようとする人は多くても、イエスと真実に向き合い、自分を探り、その心を正直に告白する人はどれほどいるでしょう。イエスは後者を探し求め、目を留めて、その人を新しい生き方へと導かれます。(H.M.)